

ナミイタの施工方法

1. 屋根勾配と標準重ね代

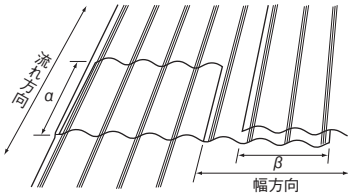
ナミイタを施工する際には、重ね部分から雨が漏れないように下表の重ね代を取ってください。

流れ方向の重ね代

勾配△a/b	2.5/10	3/10	4/10	5/10
重ね代(mm) a	180以上	150以上	120以上	100以上

幅方向の重ね代

波 形	32波	63波	76波	130波
重ね代(山数) β	2.5山以上	1.5山以上	1.5山以上	1.5山以上



2. 重ねかけと取付金具の位置

ナミイタの幅方向の両端は片側下がり片側上がりとなっていますので、幅方向の重ねは必ず下がりの方を外側に施工してください。また、ボルトの取付ピッチも下図を参考に行ってください。

		重ねかけ(右使用の場合)
鉄板小波(32波) 655幅	端部	
	中間部	
鉄板小波(32波) 1105幅	端部	
	中間部	
スレート小波(63波)	端部	
	中間部	
鉄板大波(76波)	端部	
	中間部	
スレート大波(130波)	端部	
	中間部	

(注)端部＝軒桁、縦重ね部、天窓下等

3. 母屋間隔

ナミイタを施工する際の母屋間隔は600mm以下とするのが標準ですが、強風地域や多雪地域では母屋間隔をなるべく小さくしてください。

4. 切断および穴あけ

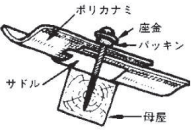
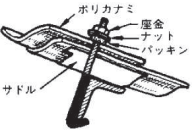
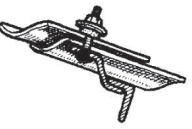
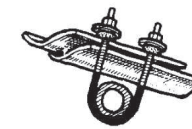
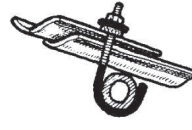
●切断

金鋸、電気丸鋸、ジグソー、銚などで切断してください。なお、ポリカナミは切断後表裏がわからなくなるので、切断前に印を付けておくように注意してください。

●穴あけ

穴あけは、キリ・電動ドリルで行います。穴の大きさは使用する釘やボルトの径よりもポリカナミは1～2mm程度、トップナミは2～3mm程度大きくあけます。これは温度変化によるナミイタの伸縮を逃がすためです。

5. 取付方法

①木母屋打込釘使用 	②鉄フックボルト使用 	③鉄骨チャンネルボルト使用 	④鉄骨チャンネルボルト使用 
⑤鉄骨チャンネルボルト使用 	⑥鉄骨変形ボルト使用 	⑦稲妻金物使用 	⑧パイプU字ボルト使用 
⑨レール用チャンネルボルト使用 	⑩パイプボルト使用 	⑪チャンネルボルト使用 	⑫下見用パイプボルト使用 

6. ナミイタの注意事項

- ポリカナミに直接体重を乗せると破損し、墜落する恐れがありますので乗らないでください。やむを得ず上に乗る場合は、母屋のあるところか、踏み板を渡してください。
- 多雪地域では母屋間隔をなるべく小さく取り、雪降ろしの際は必ず踏み板を用いてください。
- 特に風の強い所では先端部を上から押さえ縁で押さえてください。
- 低温時の孔開け、釘打ちは、ワレ、カケを生じることがあります。特にエコナミは、低温時には割れやすくなるため、ご注意ください。
- 塩ビ製ナミイタの場合、強い直射日光の当たる所に積み重ねて放置すると、蓄熱して波が変形する恐れがありますので注意してください。
- 高温多湿下では波崩れや劣化が促進されることがありますので、雨水などがナミイタの間に入らないようにしてください。
- 近紫外線領域の一部が透過しませんので、農園芸用途への使用に当たってはご相談ください。
- 塩ビ製ナミイタ、ポリカナミ共に自消性を有しますが、燃えますので火に近づけないでください。また一般家庭では燃やさないでください。
- シーリング材を使用される場合は、シリコーン系シーリング材アルコールタイプ（脱アルコール型）を使用してください。
- クレオゾートなどの木材防腐剤を併用してご使用になりますと、クラック発生の原因となりますので使用は避けてください。